

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果 成日 平成28年11月10日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300393
法人名	社会福祉法人恵仁会
事業所名	グループホームふれあい
所在地	鹿屋市下祓川町1805番地 (電話) 0994-40-2588
自己評価作成日	平成28年11月16日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	-----------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成28年11月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の特別養護老人ホーム鹿屋長寿園や池田病院・訪問看護ステーションが隣接している為、緊急時の時も安心感がある。そのために入所申し込みも多い。敷地内には畑があり、桜の木の下で花見を楽しんだり、時期に応じて、ホテルが見学できる場所もある。理解ある家族に囲まれ、ボランティアに訪れる家族の協力でお天気の良い日は散歩に出掛け、畑の野菜の成長を楽しまれる。収穫した野菜を膝に抱えて帰る楽しみもある。また、法人はいろいろな研修会の参加も後押ししてくれるので、職員は資格取得にも力を入れている。実習生もよく来られるため、意見を交わすことも多い。職員はどんな時もやさしく対応できるので、毎日笑いが絶えない。その雰囲気の中で看取りを希望される方も多く、仕事量が多いのは否めないが、とても穏やかな最後を迎えられている。

- ・廻りの景観は緑の山々が有り、敷地内の桜の下で花見を楽しんだり、畑が有り菜園での収穫を楽しんだりしている。
- ・隣接した母体の特別養護老人ホームや協力医療機関とは、医療連携が図られ利用者や家族の安心に繋がっている。
- ・地域との繋がりは町内会へも加入しお互いの行事参加を重ね日常的に交流している。
- ・利用者や家族とは早い段階で重度化や終末期の事業所の指針を説明し意思確認の文書も交わしている。事業所が対応できる最大限のケアについて説明し、看取りでは職員も研修や経験を重ね、関係機関と連携を図りながら支援に取り組んでいる。
- ・管理者は職員の意見や要望を会議等で聞き入れ運営に反映し、母体の法人からの協力もあり資格取得も積極的に支援している。職員からの信頼もあり、勤続年数が長く離職者が少ない。職員は日々のサービスを振り返り理念がケアに反映されているか常に立ち帰りながら自立支援を実践している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はケアの根本である事から職員は常に共有している。	法人の理念と共通であるが、職員は日々のサービスを振り返り理念がケアに反映されているか常に立ち戻っている。管理者も職員も個別性のあるケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	こちらから出向ける機会が少ないが、グループホーム単体では厳しい状況なので他の事業所と協力しながらオレンジカフェや介護予防教室を開催している。	法人の駐車場で市を開催したり、学生の体験学習や実習の受け入れも行っている。地域と事業所の関わりは、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業所には認知症ケア専門士が2名おり、地域に知識を還元する活動を行っている。認知症の知識を活かし、認知症セミナー等で認知症の理解を深める取り組みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには介護職経験者や教員経験者等が含まれており、活発な意見交換が出来ている。	2カ月毎の定期的な開催で、行政や経験豊かな家族の参加や他の出席者のもと、運営状況・報告・要望や助言・質問などの意見交換が行われサービス向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>鹿屋市より運営推進会議への出席を頂きながら、事故や感染症の報告等は行えている。</p>	<p>市担当者とは日頃から研修会情報や利用者の相談を通して、情報交換を随時行い、良好な協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>夜勤帯を除き玄関のカギは空いている。開所以来身体拘束は行っていない為、身体拘束がどのようなものか知らない職員も多い。毎月のミーティングに於いて、身体拘束の手引きの読み合わせを行っている。</p>	<p>身体拘束委員会が設置されている。法人の研修会やホーム独自の勉強会も行ない、職員は理解しケアしている。職員の見守りや連携で自由な暮らしを支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待については見たり聞いたりした場合も、通報義務がある事から、どのような事が虐待にあたるのかの勉強会も行っている。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度に関しては地域包括支援センターが主体となり研修会を開催してくれており、職員も参加出来ている。本年度は家族からの相談はなかった。</p>	/	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、重要事項を説明し契約を締結している。利用料金等の改正の際は家族会を開催し、説明と同意を得ている。家族会や面会時には意見をお聞きする努力をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や要望は特になが家族とのコミュニケーションは大切に、意見や要望を出しやすい環境を作っている。現在の所は意見等はない。	年2回の家族会や日常の面会・電話、また運営推進会議時などで意見・要望等を聞き入れる体制は取られている。出された意見・要望は職員で話し合い運営に反映させる様になっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングで職員の意見を吸い上げるようにしている。その意見で必要と思われる意見は、法人内の在宅会議で提案している。	職員会議や年2回の職員面接時に意見・要望を聞いている。「外出したい」との要望で1年振りの外出もする事になった。職員からの気付きやアイデアは管理者に伝えられ、運営に反映しサービス向上に活かされている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回は自己評価の提出をして頂き、面接を行い職員の意見を引き出している。職員はその能力により昇給・昇格をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力により、積極的に研修には参加する努力はしているが、利用者の重度化で多くの研修に参加出来なくなっている。介護経験のある職員が、親切丁寧に介護技術を教えていることは自負している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は大隅地区介護事業所連絡協議会の役職を担っており、多くの研修会も開催しており、参加することで、他の事業所の職員と意見交換も出来ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者にはグループホームの特性の説明を行い、納得の上入居して頂いている。本人の生活歴や性格に配慮したレイアウトをおこなっており、なじみの家具等は持参して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用される時はアセスメントを充分行い、本人、家族の要望に添えるように話し合っている。また、慣れるまではしっかり観察し、随時見守り、介助の方法を工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向に耳を傾け、生活するうえでの希望をお聞きしながら満足していくサービスについての話し合いを行っている。ケアプランもそのようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は模擬の家族である事から、その人の能力に応じたお手伝いをお願いしている。して頂いた方にはお礼の言葉を伝えているが、現在重度化が進み、支え合う関係が薄れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は職員の動きに関心を持ってくださっている。そのためにボランティアをしてくれる家族も多い。また、毎月写真と共に生活の様子をお知らせし、状態に変化があった時は、電話で状況を報告しながら、情報を共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望によっては外出したり、来て頂いたり、その方が大切にされてきた関係には協力的に動いている。お茶でおもてなしすることで関係性は良い。	希望によって、馴染みの美容室に同行するなど、外出支援も行っている。また家族の協力で外出される方もいる。電話や手紙で繋がりを継続する支援、また友人知人の訪問時にはお茶を出すなどもてなしで関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士は性格に配慮しながら食事の配置も考えている。会話はされないが、なんとなく相手を思いやるしぐさは見受けられ、職員は優しく見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ふれあいで生活される方はほとんどが看取りまでとなっているが、家族からの相談には随時答えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護保険の切り替えの時や病状の変化時等、家族に相談しながら援助している。自分で思いを伝えられない時はその表情等から察した援助を行っている。	現況はほとんどの利用者が意向・思いを伝えられなくなっているが、職員は日々様子や言葉・表情から把握に努めている。また職員は「連絡帳」の活用で情報の共有を図りサービス・ケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の来宅時は聞き取りをしながら、生活歴を聞き取ることで落ち着かれなくなった時の対応に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は体力により違う。無理のないように。しかしお元気な方は散歩や歩行訓練をして頂いている。職員はその人の能力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成に当たり、職員から意見を吸い上げている。そして、本人や家族の意向にも耳を傾けながら自立支援とパーソンセンタードケアに努めている。毎月ミーティングを利用し、モニタリングをしている。	ホーム全体で個別性を常に意識しながらケアに努めている。職員全員で内容を共有し、プラン通りのケアが出来ているか話し合い、毎月モニタリングを行い、現状に即した介護計画になるよう作成している。利用者主体の暮らしを反映した介護計画である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は重要と考えているので変化や気づきを文にしている。その文章の中から計画を見直すこともあるが、十分に引き継ぎが出来ない事から、記録を見るとその人の状態が解る仕組みを作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者は状態が少しずつ変化している。状態変化時は医師や訪問看護師・理学療法士に相談することで改善することもある。相談することで職員も知識を吸収できている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や法人の行事を大切にしながら楽しみごとを作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で病院受診も行っている。しかし、家族は病院受診に便利なので池田病院に変る方もいらっしゃる。状況により緊急で病院受診することもある。	入居前からのかかりつけ医の受診支援を基本としているが、現在はより情報交換の取り易いホームの協力医療機関の利用が多い。他科受診は家族の支援が基本だが、遠方に家族がいる利用者は職員が連れていく場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師との連携で週1回の訪問時、普段疑問に思っていることや心配事の相談が出来る。看取りに対しても不安な時はすぐに来てくださる関係にある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>隣に病院があり、看護師とも気軽に話の出来る関係にある。入院しても毎日訪問できる環境ではあるが1年間入院された方はいない。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>職員は重度化や終末期に対応できる体力は備えている。利用者の状況は密に家族に報告しているが、家族はその時その時で、心の変化があるために少しでも不安な気持ちの情報を耳にしたら納得されるまで話し合いをしている。</p>	<p>事業所の「指針」を説明し同意書や意思確認書も交わしている。開設以来10名の看取り事例も有り、今後も利用者や家族は看取りを希望されている。職員も主治医の指示の下、その方向性を共有しながらケアが出来る様、勉強会も開き知識や経験を重ねる様取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の状態は常に職員で連携、引き継ぎをしながら援助している。毎月のミーティングの時間を利用して、実践力を養ったり、マニュアルを活用しながら勉強している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災避難誘導訓練時は地域の協力を頂いている。年間2回の訓練は行っているが水害に関しては避難通路を作る予定である。</p>	<p>昼夜想定で年2回の避難訓練を地域の協力体制で行っている。備蓄も完備されているが、停電時の対応を検討している。また水害に関しては少しでも高い所への誘導を考え避難通路を検討中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は認知症の方に対しての接し方を勉強しているので、相手プライドを気付いたり、プライバシーを損ねる事には十分気をつけている。	職員は外部・内部研修を受け、ミーティングで報告し共有している。名前は「さん」付けで呼びなれ合いの関係にならないことに注意を払い、誇りやプライバシーを損ねない様に対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は相手の思いに配慮しながら援助をしている。そのために「誰がどんな思いをしている」情報もすぐに共有できる。本人に決めて頂く言葉はかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、その人の体調や精神状態に合わせた援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	常に清潔に保てる事を第一に、本人の要望にそった支援に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つである事から、旬を大切に、出来る方にはお手伝いを頂いている。散歩に行き、収穫した野菜を膝に抱えて頂いたりもしている。	テーブル拭きや茶碗洗い、また餅を丸めたり筍の皮むき等利用者の出来る範囲で手伝いをもらっている。季節の行事食も欠かす事無く提供し楽しんで頂いている。重度化に伴い外食が無くなって来たが、弁当持参での外出を予定している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一日必要な水分や栄養の把握をしている為、水分の摂取量が少ない方に対しては好みのジュース等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの大切さを認識している。1日3回の口腔ケアは欠かせない。できない人に対してはスポンジブラシ等で対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ代は自己負担である事から排泄パターンを理解しながらトイレ誘導を行っている。排泄援助を利用し、下肢筋力の維持に努めている。	排泄チェック表や利用者のサインを職員は察知し、さりげない誘導でトイレでの自立に向けた排泄の支援を行っている。オムツの使用枚数を減らす事で家族の負担軽減にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の多くは便秘の為、食材や水分補給に気をつけている。歩行出来る方に関しては散歩等を利用し、歩いて頂く努力をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は全利用者の楽しみの一つであるが、午前中は散歩や機能訓練がある事から、午後浴になっているが「お風呂」の声掛けに拒否される方はいない。	利用者の希望を尊重して個別の支援をしている。リフトの導入や介助数を増やす等入浴が楽しい時間になる様に支援している。入浴剤や湯上りには保湿クリームを使用するなど配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠を誘うためににも日中は日光浴を兼ねた散歩や室内での体操等、体を動かして頂き安眠を誘っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については担当医師に状態を報告し、処方して頂いている。服薬に関してはしっかり確認でき、新しい薬についてはインターネット等で調べながら効果や副作用等勉強している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味をお聞きすることにより、楽しみごとを作っている。現在は楽しみごとよりベッドで休むことが大好きな利用者が増えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の利用者が増え車での外出が減っている。母体の職員と車の協力が無いと外出できない状態である。散歩は近くの畑まで車いすで行ける距離であるので天気が良ければ出かけている。	歩行困難な方でも車や車イスを利用する外出に心掛けている。散歩は毎日日光浴を兼ねて行き、家族の協力で外出・外食・自宅へ帰られる方もいる。花見や初詣は恒例となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者様は次第にお金に関心を示されなくなっている。買い物を誘っているが「行かない」と言う返事が返ってくる。実際に出掛けると喜ばれる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ほとんどの方は電話や手紙に興味を示されないが、家族から電話が来たときは、お母様にお伝えすることがないかをお聞きしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間で過ごされる時間が少なくなっている。ボランティアさんが季節感のあふれるタペストリを飾ってくださる。</p>	<p>天井が高く天窓もあり広く気持ちのよい空間になっている。対面式のキッチン全体が見渡せ利用者の見守りに配慮している。リビングや廊下にはソファが置かれゆっくりとくつろげる配慮がなされ、壁には手作り作品や写真が掲示されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間にはソファを置き、くつろげるようにしているが車椅子の方は休まれることはない。皆さん重度化されているので居室が一番落ち着かれるようです。居間にいらっしゃる時でも静かに過ごされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持参して頂いている。本人の居心地と安全に配慮したレイアウトとなっている。	位牌や家族写真など馴染み深い品を飾ったり、テレビやソファが置かれ自宅と同じ様に安心して暮せる居心地のよい空間になるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや非常口はそれぞれ表示があり、利用者様はその身体能力に応じて、ポータブルトイレや介護用品を駆使することで、出来る事に配慮した生活の支援をしている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない